

神奈川県金融経済概況（2017年9月）

I. 概況

神奈川県の景気は、着実に回復している。

すなわち、企業部門をみると、生産は増加している。輸出は持ち直している。設備投資は増加している。家計部門をみると、雇用・家計所得環境は全体として改善しており、個人消費は緩やかに持ち直している。この間、住宅投資は増加しており、公共投資は持ち直している。

金融面をみると、貸出、預金ともに引き続き増加している。

II. 実体経済

(1) 生産： 増加している。

- ・ 輸送機械は、新興国向けトラックが低迷しているものの、国内向けトラックが好調なほか、国内向け乗用車も新車投入効果が継続しているなど、増加している。
- ・ 素材関連は、鉄鋼やプラスチック製品を中心に増加している。
- ・ 電気機械は、発電施設向け機器が概ね横ばいとなる中、電子部品・デバイスが緩やかに増加しているほか、外需向け基地局通信装置や自動車向け製品が増加しているなど、持ち直している。
- ・ はん用・生産用・業務用機械は、半導体等製造装置が高水準で推移している中、外需向けを中心に工作機械やはん用機械類が堅調なことから、増加している。

(2) 輸出： 持ち直している。

- ・ 中国向けを中心に持ち直している。

(3) 設備投資： 増加している。

- ・ 17/6 月短観における、17 年度の設備投資は、前回調査比上方修正となり、前年を上回る計画となっている。製造業・非製造業ともに、既存設備の維持・更新などがみられている中、製造業では需要好調を受けた能増投資がみられており、2 年連続で前年を 2 割程度上回る計画となっている。一方、非製造業では大幅に伸長した前年の反動から減少計画となっている。

(4) 雇用・家計所得環境： 全体として改善している。

- ・ 7 月の有効求人倍率（勤務地ベース）は 1.37 倍と、前月（1.35 倍）に引き続き、統計が公表されている 05/2 月以降、最も高い水準となった。一方、6 月の現金給与総額は前年比▲0.6%となった。この間、神奈川県 of 夏季一時金要求妥結状況（最終）の妥結額は、前年を上回った。

(5) 個人消費： 緩やかに持ち直している。

- ・ 百貨店売上高は、化粧品が引き続き好調な中、高額品や身の回り品などが堅調となっており、持ち直している。
- ・ スーパー売上高は、一部に弱さが残るものの、持ち直している。
- ・ 家電販売額は、高機能製品を中心に白物家電などが堅調なほか、携帯電話も概ね下げ止まっており、緩やかに持ち直している。
- ・ 新車登録台数は、各メーカーにおける新車投入効果から、小型・普通乗用車が堅調に推移しているほか、軽乗用車も持ち直しており、全体では増加している。

《参考》

- ・ 県内観光・レジャー施設の利用状況や、ホテル・旅館の稼働状況をみると、堅調に推移している。

(6) 住宅投資： 増加している。

- ・ 着工ベースで見ると、貸家、分譲戸建て、持家が減少した一方、分譲マンションが増加している。

(7) 公共投資： 持ち直している。

- ・ 7月の公共工事請負額は、県が増加した一方、国、独立行政法人などが減少したことから、前年を下回っている。

Ⅲ. 金融情勢

(1) 貸出： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の貸出をみると、引き続き増加している。個人向けでは、住宅ローンを中心に引き続き増加しているほか、法人向けでは、不動産業を中心に増加している（貸出金末残前年比：6月+1.2%→7月+1.2%）。
- ・ この間、貸出約定平均金利は、引き続き低下している（月末貸出約定平均金利：6月1.189%→7月1.186%）。

(2) 預金： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の実質預金をみると、個人預金および法人預金ともに前年を上回っており、引き続き増加している（実質預金末残前年比：6月+3.4%→7月+3.0%）。

以 上

「神奈川県金融経済概況」は、金融経済統計および企業等へのヒアリング調査を踏まえて作成しています。